



高山西ロータリークラブ

例会報告

第 2630 地区 岐阜県 濃飛分區 創立 1966 年 1 月 15 日

- 例会日 毎週金曜日 12:30~13:30
- 例会場 高山市花里町 3-33-3 TEL 34-3988
- 会長 折茂 謙一
- 幹事 米澤 久二
- 会報委員長 脇本 敏雄



「初秋の錫杖岳」 蜘蛛 康介

<会長の時間>

本日はジェイムズ・C・コリンズ著、日経BP社出版のビジョナリーカンパニーという書籍の紹介をします。1994年に一刊が出版さ



れ現在までに4刊が出版されています。本日は第2刊、2001年12月21日出版の『飛躍の法則』の紹介です。わたしが個人的に興味を持った部分を抜粋してお話します。

冒頭に「良好は偉大の敵である。偉大な人生を送る人がめったにいないのは、かなりの部分平凡な人生に満足すれば気楽だからだ、ここに大部分の企業の問題がある。よい企業は偉大な企業になれるのか、どうすれば偉大な企業になれるのか」という疑問がこの本の主題として提示されています。良好が偉大の敵になるのは企業だけにみられる問題ではない。人間のあらゆる組織にみられる問題である。偉大さへの飛躍をもたらす法則を発見できれば、どのような種類の組織にとっても役立つはずである。偉大な企業のリーダーの型は強引なカリスマタイプではなく万事にひかえめで、もの静かで、内気で、どちらかというところと恥ずかしがり屋ですらある。なすべきことを成し遂げる極端なまでの不屈の精神、不利な状況や絶望的な事態にぶつかったとき最後には必ず勝つという確信を持っている。厳しい現実を直視して我々は決してあきらめない。決して降伏しない。時間がかかるとしても必ず勝つ方法を見つけ出すという不撓不屈の姿勢があります。永続する偉大な企業の中にも一点の傷もない完璧な実績を誇る企業は一つもない。どの企業も浮き沈みを経験してきている。決定的な点は困難にぶつからないことではなく、困難にぶつかった後はね返してさらに強くなれるかどうかで、困難な状況が会社を強くする武器になっています。そして飛躍を指導した経営者には『私は幸運に恵まれた。』といった幸運が話題になる事が極めて多かった。偉大な企業を創業した経営者は、利益は目標ではなく結果であるという姿勢です。社会に対する使命という絶対価値を追求する強い意志があります。また基本理念の維持は永続する企業の特徴の中心になっています。基本理念を維持しながら絶えず世界の変化に対応して、戦略と慣行は時代とともに変化しているわけですから、不易流行ということになります。

<幹事報告>

◎ガバナー・地区大会実行委員長・地区大会幹事より
・地区大会出席の御礼



◎全国 RYLA 研究会大会委員長・国際ロータリー元理事・ガバナー会議長 より
・「第6回全国 RYLA 研究会」開催のご案内
日時 2013年 2月 9日(土) 10:00~17:00
会場 グランドプリンスホテル新高輪
登録料 10,000円/1名

◎高山市民憲章推進協議会より

- ・高山市民憲章推進協議会文化講演会の開催について(ご案内)
日時 12月4日(火)
18:30 フラワーコンクール表彰式 19:00 開演
場所 高山市民会館小ホール
講演 NHK名古屋放送局アナウンサー 岡野 暁 さん
- ・歴史文化(観光)施設市民無料公開について(ご案内)
日時 12月2日(日)
公開施設 市内34か所35施設
*文化講演会入場整理券、および施設無料入館券は、11月15日(木)より以下の場所にて配布市役所(1階インフォメーション) 各支所地域振興課・市民文化会館

<受贈誌>

高山中央RC(会報)、ロータリー米山記念奨学会 (ハイライトよねやま 152)

<出席報告>

区分	出席	Make-Up	出席者数	会員数	出席率
前々回	36名	15名	51名	51名	100.00%
本日	38名	—	38名	51名	74.51%

奉仕を通じて平和を

例会報告

<本日のプログラム> 環境保全委員会

委員長

遠藤 隆浩

本来、本日は社会奉仕委員会担当例会でしたが、ちょうどあさって日曜日の原山散策の講師をお願いしている小野木先生をお招きしているという事で、散策前に原山の自然についてのお話をさせていただき、として環境保全委員会に例会変更いたしました。しかし昨日の降雪で散策道も荒れている状況のため、散策はやむを得ず中止とさせていただきます。

小野木先生は1939年各務原市生まれの自称「楽老自遊人」でアルキニストでいらっしゃいます。その人となりは、ご自身作詞、リピート山中山さん作曲の「ふるさと歩こうアルコール会」をここで聴いていただく事でお解りいただけだと思います。本日は社会奉仕委員会のスピーチとして当初ご用意いただいた、ブータンについてのお話をさせていただきます。



ブータン王国を訪ねて

小野木 三郎 様

「山を楽しみ山を歩く」をモットーに、日本の自然を再発見する視点での「山^{さん}楽^{がく}山^{さん}歩^ぽ海外の旅」第28弾で、2003年3月末にブータン王国へ行って来ました。

中国とインドに挟まれたヒマラヤの一角、百年程も前から続く王国で、チベット仏教が今に生きている秘境です。面積が九州位、人口は70万人少々、インド境の亜熱帯にはトラ、インドイッカクサイが息し、南北が岐阜県位の長さ北の端には7,000mを越える氷河の山々が連なっています。

急逝した父王を継いで1972年に16歳で即位した第4代国王は、近代化や経済発展について独創的な考えを持ち「GNHはGNPより重要である」と発言し、これが世に広く知られる理念となりました。自然を守り、近代化をあせらず、伝統文化を守り、よい統治をすることを国のあり方の基本にした王国でした。

第4代国王の戴冠式(1974年)に、乗用車を輸入し迎賓館を造りましたが、式の後に使い道がなく、この無駄を解消しようと「外国からの客を受け入れる」観光政策が始まりました。一人一日200\$というべらぼうに高価な設定だったので、誰もが安易に出かけられませんでした(現在は観光客も年々

増え、団体以外の個人でも入れますがその場合は割高で一人一日250\$)。

4代国王自らが民主的な君主制を推進し、国民の多くの反対にもかかわらず絶対王政を放棄し、2008年初の総選挙が行われ、議会制民主主義国家の仲間入りをしました。私たちが訪れた時には琵琶湖(滋賀県)で世界環境会議があり、当時の皇太子が出席されました。その帰途、ブータン国営のドラックエアー(90人乗り)で、ニューデリーからパロへ飛び機内で一緒だったのでした。このときの思い出を生かし、昨秋第5代国王が美しい奥様を連れて来日され、TV画面を通じて日本にブータンブーム(?)をもたらした事は御存じでしょう。

ブータンという国は一口でいえば、私たちの幼少の頃の日本の様な、のんびりとした農業王国といった感じでした。物が豊かで全てが便利、満ち足りた機械文明に慣れ切った現代人の私たち日本人からすれば、一面、何とも遅れた発展途上国と言えますが、終戦後の苦しい生活を知り、農業王国の青少年時代を送った私の世代人にとっては、経済成長のなかで日本と日本人が失った大切なものが残り満ちていて、懐かしさ、郷愁にかられる所でした。巨大ダムに頼らない、国土の六割を下回らない森林。アメリカなどの大国とは付き合わない。建物は伝統建築を守る。国中が禁煙。そんな国って信じられますか？

首都ティンピー、飛行場のあるパロなど街を囲む山肌は、本来照葉樹林帯なのに、日本と同じような松林になっていました。私たちはパロからパロ川沿いに北上し、秀峰チョモラリ(7315m)のベースキャンプまで約60Kmの行程を2泊3日で歩きました。最大の発見は、日本では照葉樹林の上に夏緑広葉樹林(ブナ林)ば現れ、亜高山帯の針葉樹林、そして高山帯へと移行するのが常識ですが、アラカシ、アセビ等の常緑・照葉樹林を過ぎても、飛騨を特色づける落葉・ブナ林帯が見られずモミ類の針葉樹林に移行することでした。さらに、昔は乗鞍岳の中腹で見られた長い長いサルオガセが今もブラブラと豊かだった事でした。この点だけでも飛騨地方の自然風土の多様性に富んだ豊かさこそ特異で誇りであると再認識させられました。

鎖国状態にあったブータンも、1999年にテレビ放送とインターネットが導入され、2003年には携帯電話が導入されました。国際化の波の中で、近代化を急がない国策が今後どのように具現化されるのか、仏教の知恵に生きる人々の、一層の幸せな暮らしを祈っています。



奉仕を通じて平和を

例会報告

<ニコニコボックス>

●折茂 謙一さん

①本日は小野木三郎様、ご臨席有難うございます。卓話よろしくお願ひ致します。

②鴻野さん、昨夜は大変ご馳走になり有難うございました。

●米澤 久二さん

本日は小野木先生よろしくお願ひします。卓話楽しみにしております。シンボルカラーのクグリーンはとても素敵です。

●田近 毅さん

緑のおじさんこと小野木三郎先生のご来訪を歓迎申し上げます。山や野原の環境保全にロータリーは如何にかかわって行けば良いかご指導下さい。楽しいお話を期待しています

●遠藤 隆浩さん

小野木先生、母が山歩きでお世話になっています。本日はよろしくお願ひします。

●山下 明さん

小野木先生のご来訪を歓迎して。いつも目からうろこの話、今日の卓話楽しみにしています

●田中 正躬さん

小野木さんのご来訪を歓迎いたします。

●小田 博司さん

小野木様のご来訪を歓迎いたします。スピーチ楽しみです。

●岡田 賛三さん

- ・小野木先生のご来訪を歓迎します。
- ・ソーラー発電を始めました。NHK TVで紹介していただきました。

●小森 丈一さん

結婚記念日、家内の誕生日にお祝いを頂きありがとうございます。お互い健康であることに感謝して居ます。

●葛谷 一嘉さん

第一例会にて結婚記念日、誕生日のお祝いをいただき有難うございました。

●下屋 勝比古さん

結婚記念日のお祝いをいただきありがとうございます。久しぶりに妻が喜んでくれました。

●河尻 浩次さん

41 号線沿いのエブリデープラザでも、生体認証ATMが使えるようになりました。これでバスも含めて3店舗全てご利用できますのでよろしくお願ひします。

●伊藤 松寿さん

オーストラリアの元交換学生のジュニンの結婚式に、家内と一緒に参列して来ました。感動的な素晴らしいウェディングセレモニーとウェディングパーティーでした。彼女からは西クラブの皆さん、とりわけホストファミリーの皆さんに宜しくお伝えください、との事でした。



一期一会 「模型部の七人の仲間」 村瀬 勝彦

● 高校時代に模型部という少々変わったクラブに入っていました。列車模型等を作っていて、オモチャ部などからかわれたりもしていました

● そこで卒業記念に頑張って校舎模型を造ろうと、設計図も無かった校舎を実寸で計り、150分の1の図面をもとに、オモチャ部返上の意気込みで同窓生7人全員で本当に頑張った思い出があります。それがときの校長に認められ、立派な木製ケースを提供され、正面玄関に飾られた時は鼻高々だったのを覚えています。

● 7人なので「模七会」と名付け、還暦後などは毎年集まっていますが、大変残念ながら昨年一名欠けてしまいました。

● 6人になった会の名前はと、先日話し合いましたが、6人で「模六会」では「もうろく会」と呼ばれそうだと、ということで「模七会」のままになりました。